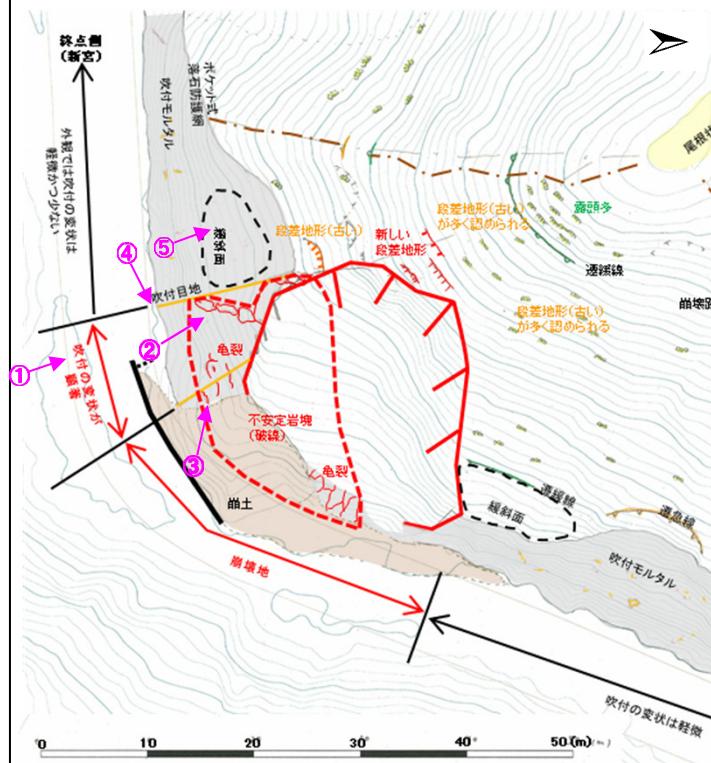


4. 2(1) 現地踏査結果(1月5日時点)

周辺の吹付モルタル斜面の状況 (終点側(南側))

- ・崩壊地から約15mまでの区間で新しい開口亀裂や目地のずれが集中している。(写真①~④)
- ・これより終点側については、モルタルの剥離やヘアークラックが点在するが、いずれも古い変状である。
- ・崩壊地から15m~30m付近の大きく開口したモルタル吹付隣接部で過去の斜面変形を示唆する緩斜面が認められる。(写真⑤)



平面図(12月29日の地形状況より作成)



写真① 終点側(南側)モルタル吹付の変状分布状況



写真② モルタル吹付の亀裂



写真③ モルタル吹付の亀裂、目地の開口



写真⑤ モルタル吹付の緩斜面

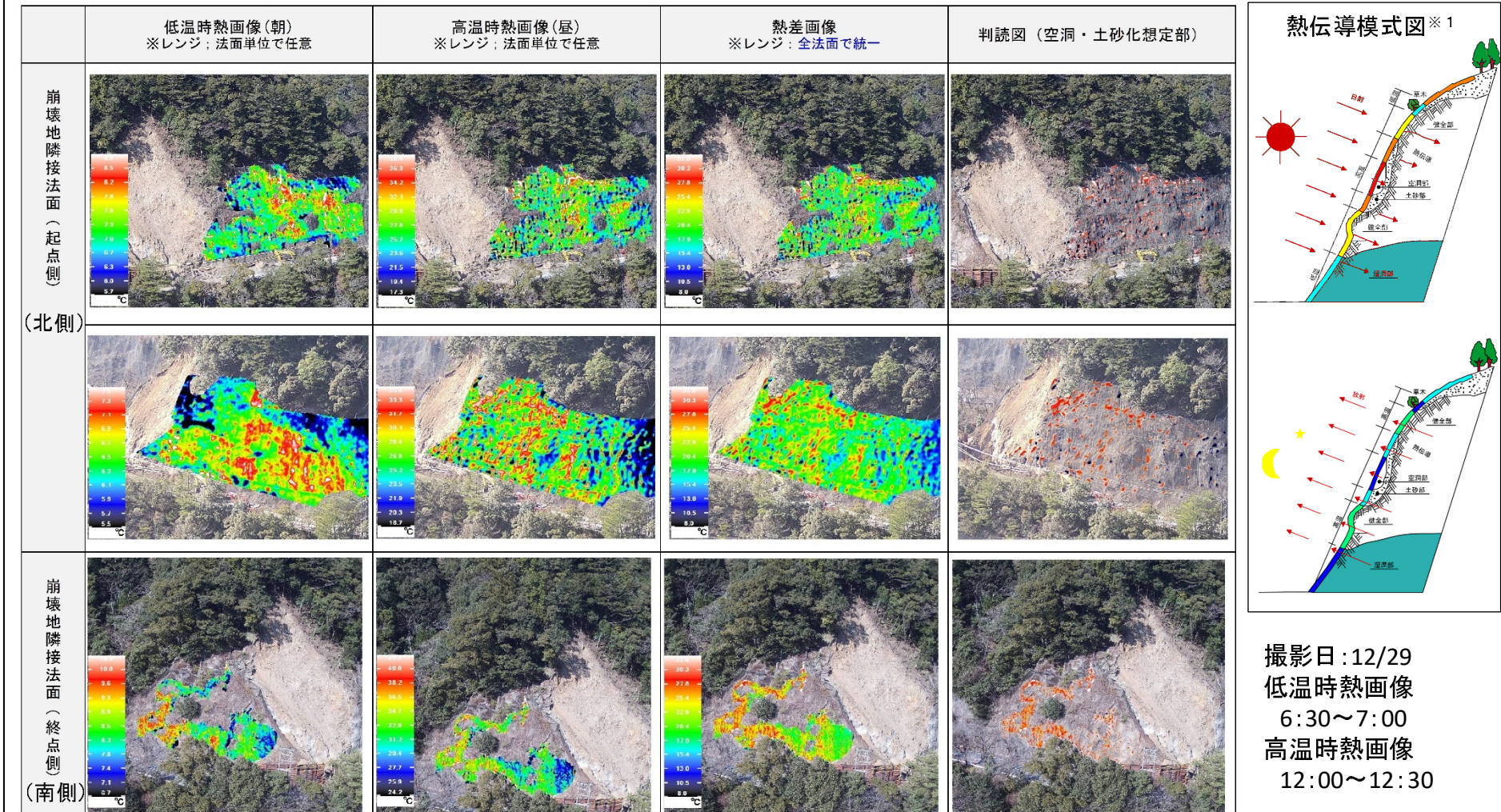


写真④ モルタル吹付の目地の開き

4. 2(3) 熱赤外線調査結果

- 植生や木陰、崩壊地付近では崩積土の影響で解析範囲が限定的となったが、崩壊地の隣接斜面は起点側、終点側ともに全体的に朝昼の温度差は大きくなっている。法面全体に空洞や背面の土砂化が進行している可能性がある。
- 一方で法面単位で比較すると、崩壊地の**終点側隣接斜面で温度差が最も大きい傾向**にある。(起点側に対して2℃程高い)

吹付背面の性状	日中の表面温度	夜間の表面温度	2時期の温度変化
空洞部	特に高い	低い	特に大
土砂部	高い	低い	大
健全部	低い	高い	小
湿潤部	特に低い	低い	特に小



※1：熱赤外線映像法による吹付のり面老朽化診断マニュアルP.15